

Arribas Wine Company

アリバシュ・ワイン・カンパニー

地域：Tras Os Montes トラス・ウズ・モンティシュ

造り手：Frederico Machado フレデリコ・マシャド（左）

Ricardo Alves リカルド・アルヴェシュ（右）

HP: <http://arribaswine.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/arribaswinecompany/>



ワイナリー概要：

ポルトガル北東部、スペイン国境に近いベンポシュタ村に、フレデリコとリカルドの二人組が設立。兩人とも旧世界、新世界を問わず多くの地域でワイン醸造を経験すると同時進行で、情熱を注ぎこむ地を探していた。リカルドはトラス・ウズ・モンティシュの出身で、そしてフレデリコの祖父母も同地域のベンポシュタ村の出身で、2人にとってゆかりの地ではあるのだが、村周辺に広がる畑の写真を見た瞬間に、そのファインワイン生産をする上でのポテンシャルを2人は見抜いていた。

2017年初醸造のワインは「サロート」と名付けた。それは「しっぽを切り落とされた動物を意味する現地での呼び名」であるが、トカゲは再生能力の象徴でもあり、そのポテンシャルを認識されぬまま、消え去りそうなベンポシュタのワイン文化を復興させたいという意志が込められている。現在所有している2haの畑は全て赤品種と白品種が混植されており、赤ワインにも30%ほど白品種が混醸される。

アリバシュ・ワイン・カンパニーの生産地地域は、トラス・ウズ・モンティシュ地域のサブリージョンである、プラナルト・ミランダスに区分される。しかしドウロ川中流の、ポルトガルとスペインの国境を成すエリアは、スペイン側ではアリベシュ・デル・ドウエロ（DO アリベシュ）と呼ばれ、自然公園として保護されている。そしてドウロ川を挟んだポルトガル側のベンポシュタ村周辺も、気候や土壌、畑の環境において、DOC トラス・ウズ・モンティシュよりも、DO アリベシュによりつながりを感じることから、アリバシュの名を冠するワイナリー名をつけた。

《 ミニマルなワイン造りを目指す二人。使用する器具は最低限 》



《 ブドウ畑の冬と夏 》



《 発酵槽でマセレーション中のブドウ 》

